

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

株式会社サクセスアカデミー

にじいろ保育園戸塚

横浜市戸塚区戸塚町 4915-4

【評価対象種別】

保育所

【使用評価項目】

横浜市版

●実施概要	P1
●総合評価	P2 ~P3
●分類別評価結果	P4 ~P16
●利用者家族アンケート結果	P17~P25
●利用者本人調査結果	P26~P27
●事業者コメント	P28

2016年9月

評価実施機関：合同会社 評価市民・ネクスト





## 【評価実施概要】

事業所名	株式会社サクセスアカデミー にじいる保育園戸塚
事業所への報告書提出日	2016年10月19日（評価に要した期間）7か月
評価機関	合同会社 評価市民・ネクスト

### 評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 2016年5月20日～7月11日</p>	<p>全職員が自己評価表の全ての項目において自己の評価を行い記入した。</p> <p>グループを3つに分け、個人が記入したものを持ち寄り、グループごとに一つにまとめた。新人グループには、主任がアドバイザーとして参加した。</p> <p>各グループで出されたものを園長、主任、幼児と乳児のリーダーで整理した。次に園長、主任（項目により看護師、栄養士も加わり）とで協議、修正しながら、最終的な保育園の自己評価としてまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 2016年6月8日～6月22日</p>	<p>全園児の保護者（73世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日 第1日：2016年8月8日 第2日：2016年8月9日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：書類調査。園長・主任・運営法人スーパーバイザー・保育アドバイザーにヒアリング。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：朝は登園の様子を観察。その後各クラスで保育観察。 昼食：園児と一緒に食べながら保育観察。 午後：各クラス担任保育士6名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名、主任に順にヒアリング。 その後、園長・主任・運営法人スーパーバイザー・保育アドバイザーにヒアリング。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日 第1日：2016年8月8日 第2日：2016年8月9日</p>	<p>観察調査を調査員が各クラスで実施し、戸外・園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

### 【施設の概要】

にじいろ保育園戸塚は JR 東海道線・横須賀線及び横浜市営地下鉄ブルーライン戸塚駅西口から歩いて 5 分ほどの利便性が良い所にあります。周囲には、オフィスビルや商店、マンションなどが並んでいます。

にじいろ保育園戸塚は 2008 年（平成 20 年）4 月に株式会社サクセスアカデミーにより設立されました。運営法人は保育園・学童クラブ・児童館の運営、病院・事業所・大学内の保育委託サービス、保育施設運営のコンサルティングサービス等を、首都圏を中心に幅広く展開しています。

本園・分園ともマンションの一階にあり、街中にありながら静かな環境となっています。本園はウッドデッキで 2 棟がつながれていて、夏には水遊びやプール遊びに用いています。小さいながら砂場がある園庭があり、一角では子どもたちが季節の花や野菜を育てています。近くの分園は 0・1 歳児保育室となっていて、テラスもあります。

定員は 84 人（0 歳児～5 歳児）、開園時間は平日は 7 時～20 時、土曜日は 7 時～18 時です。

保育理念は「のびやかに育て だいちの芽」、保育方針は「みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛（信頼・安定・共感）」、保育目標は「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」です。

### ●特長・優れている点

#### 【1】保育士の働きかけのもと、子どもたちは元気に園生活を楽しんでいます。

保育士は、子どもの話に耳を傾け子どもの様子を観察し、指導計画に反映させ保育にあたっています。また、子どもの思いや言動を十分に発揮できるよう、環境構成するとともに、それぞれの発達年齢にあわせ、子どもの興味をひきだし、発想、展開、創作へと繋がる活動や遊びを工夫しています。

乳児は、保育室を小さく仕切って家庭的な雰囲気を作り、一人一人の子どもが落ち着いて活動に取り組みできるようにしています。保育士は子どもに笑顔で語りかけ、子どもの気持ちを受け止めていて、子どもたちは一人で黙々と手作りおもちゃで遊んだり、友達と一緒にごっこ遊びをしたりし、園生活を過ごしています。

幼児は、子どもの成長に合わせて保育士が工夫した遊びを、それぞれの個性に合わせて楽しんでいます。一人一人の反応は様々ですが、お互いの思いを保育士がつなげることで、友達との関わりの中で集団での活動となっています。また、プール遊びや散歩で身体を思いっきり動かしたり、ゲームで友達と協力することもできます。観察時にも氷や寒天を使った感触遊びを、それぞれの興味、関心に合わせて楽しみ、新しい遊び方を見つけたり、友達と発見を伝え合ったりしている姿を見ることが出来ました。

#### 【2】職員は自己研鑽に励むとともに、職員間で連携し成果を保育の現場で活かしています

保育士は、クラス会議や職員会議で常に自己の保育についての振り返りをし、より良い保育の実現に向け努力を重ねています。職員は、法人研修や横浜市や戸塚区などの外部研修に積極的に参加し、新しいスキルの習得に向け努めています。研修の成果は研修報告書や職員会議で職員間で共有しています。また、園内研修では、研修係を務める保育士 2 名が中心となって年度のテーマを決め、グループワークや発表を通して自己研鑽を重ねるとともに、園の課題の改善に向けて取り組んでいます。

また、安全面などについて保育士、主任、看護師、栄養士など職種を越えて職員間で連携し、課題の解決

に向けて積極的に取り組んでいます。ヒヤリハット報告を分析して保育室ごとの危険箇所を生活の流れとともに表示する、今年度のプールの監視員の配置にあたって保育士の発案でシミュレーションを行い高い位置から監視することにした、年2回アナフィラキシーが起きたという設定で誤食訓練を実施するなど、安全面などでの様々な取り組みに連携の成果を見ることが出来ます。

このように、職員の自己研鑽の成果は、様々な形で現場に活かされています。

### **【3】子どもを中心として、保護者との連携関係ができています**

園では、園の保育への保護者の理解を深め、保護者の意見・要望を把握するように努めています。園と保護者代表との話し合いの場である運営委員会では、クラスの意見をまとめてきた保護者代表から活発な意見や要望が出されていて、意見交換の場となっています。また、行事の後には必ず保護者アンケートを行って保護者の意見を聞き、次回の取り組みに反映するなど、保護者とのより良いコミュニケーションの構築に向けて取り組んでいます。このような園の姿勢は今回の保護者アンケートでの高い満足度でも見受けられます。

毎年度課題となっている運動会の開催場所について、保護者に情報提供を求めたところ、保護者から近隣の学校や法人などについての情報が多数寄せられていたり、読み聞かせや講習会など、保護者の勤務先からの情報が数多く寄せられているなど、子どものためにという思いを通し保護者と園の連携関係が築かれています。

### **●改善や工夫が望まれる点**

#### **叱り方などの子どもの人格尊重への取り組みをさらに深めることが期待されます**

保育士は、研修や職員会議で目指す保育について意識統一を図っています。園が目指す保育園の実現のために、人権を見直す必要があるとの考えから叱り方を園内研修でとりあげるなどの取り組みも行っています。

しかし、観察時にも、他の子どもが見ている前で大きな声で子どもを注意したり、子どもの年齢では理解が難しい表現で叱ったりなど、取り組みが必ずしも徹底されていないのではという場面も見受けられました。

保育士自身の自己評価の中で、叱り方など子どもとの関わり方が課題としてあがっていることからみても、保育士の意識は高まっていると思われます。今後も取り組みを継続するとともに、お互いの保育の良い点を見合う機会を作る、お互いに注意し合える雰囲気作りを工夫するなど、子どもの人格尊重についての取り組みをさらに発展させ、保育士と子どもの関係性を深めることが期待されます。

## 分類別評価結果



「ひょう太」 3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

横浜市の評価基準に基づいて、各評価分類は1～6つの評価項目によって構成され、評価項目の評価結果によって、評価分類の評価結果が決まります。

### 評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</p> <p>(1) 保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2) 保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3) 日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念として「のびやかに育て だいちの芽」、保育方針として「みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛（信頼・安定・共感）」、保育目標として「自然を愛し、心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動し、意欲と根気のある子ども」「『仲間』と関わり、人を思いやれる子ども」「自己を表現できる子ども」を掲げていて、利用者本人を尊重したものとなっています。</li> <li>・保育課程は保育理念・目標・方針に沿い、子どもの様子や家庭の状況、地域の状況などを考慮して作成していて、子どもの最善の利益を第一義にしています。保育課程は、前年度の振り返りを基に、クラス会議、職員会議で話し合い作成しています。保護者に対しては、重要事項説明書に保育課程をまとめた物を記載するとともに、年度初めの懇談会で具体的にかみくだいて説明しています。</li> <li>・クラス会議で話し合い、年齢ごとに指導計画を作成しています。苗を買いに行く前に何を育てるかを子どもと話し合い決めたり、やりたいという声が子どもから上がったことを受け縄跳びカードを早くから取り入れるなど、子どもの意見・要望を柔軟に計画に取り入れていて、子どものやりたい気持ちを大切にされた指導計画となっています。</li> </ul>
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> <p>(1) 入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2) 新入園児受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3) 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入園時に、児童調査票、健康調査票、面接確認シート、アレルギー調査票などに保護者に記入してもらい、子どもの成育歴や既往症、家庭の状況などを把握しています。入園前に園長、クラス担任が保護者に面接しています。0歳児は全員、他のクラスは必要に応じて、看護師、栄養士も面接しています。面接などで得た子どもの情報は記録し職員室の鍵のかかる棚に保管し、必要な職員はいつでも確認することができます。また、職員会議で把握した情報を報告し、職員間で共有しています。</li> <li>・慣れ保育（短縮保育）は、保護者の要望を考慮しながら子どもの状況を見て、個別に対応しています。0・1歳児は、入園直後は主に担当する</li> </ul>

保育士を決め、できるだけ同じ保育士が関わるように心がけ、子どもが安心して園生活を始められるようにしています。新入園児に多く関わることで、在園児が不安定にならないようできるだけスキンシップを多く取るよう心がけています。また、複数担任のクラスはできるだけ一人は持ち上がるようにしています。環境の変化の大きい、分園から本園に移る1歳児は年明けからは交流を密にし、新しい場所に慣れるように配慮しています。

- クラス会議で話し合い、子どもの発達や状況に応じて年間指導計画、月案、週案の作成、評価、見直しをしています。連絡帳や個人面談、運営委員会、保護者アンケートなどで保護者の意向を把握し、保護者の意見を計画に反映しています。保護者の意向を受けて4・5歳児のかつおぶし教室を保護者参加型にしたなどの事例があります。

### I-3 快適な施設環境の確保



- (1) 子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）への配慮がなされているか。
- (2) 沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。
- (3) 子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

- 保育室に、温・湿度計を設置し、エアコンを用いて温・湿度の管理を行っています。また、保育室に空気清浄機、加湿器も設置するとともに、換気扇を用い24時間換気をしています。
- 4・5歳児は同じ保育室を用いていますが、隣のクラスが静かな活動をする時には散歩に出かけるなどし、調整しています。保育士は職員会議で話し合い、穏やかな声で話しかけるよう心がけています。ただし、観察時には、隣のクラスまで聞こえるような大きな声で叱る場面など見受けられましたので、さらなる取り組みが期待されます。
- 沐浴設備、温水シャワーの設備があります。沐浴・温水シャワーの設備は清掃マニュアルに基づいて清掃が行われていて、清潔に保たれています。
- 敷物やパーテーション、棚などを用いて保育室を仕切り、小集団で落ち着いて遊べるように工夫しています。0歳児～3歳児は食べる・寝るの機能別空間を確保しています。4・5歳児はきれいに清掃してから、布団を敷いています。
- 異年齢児間の交流の場としてはウッドデッキがあります。朝・夕の合同保育の時間には異年齢で交流しています。また、建物が3つに分かれていますので、散歩や行事など、異年齢児で交流する機会を意図的に多く作っています。

### I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- (1) 子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。
- (2) 子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- 0・1・2歳児は個別指導計画を作成しています。幼児についても特別な課題がある場合には、個別指導計画を作成しています。個別指導計画は担当保育士が作成し、クラス会議や職員会議で話し合い共有しています。
- 保育所児童保育要録を小学校に送付するとともに、小学校教諭と電話や面談で個別の申し送りをしています。
- 子どもの発達の記録は、0歳児は毎月、1歳児以上は4期に分けて児童

票、発達経過記録に記載しています。子どもの記録は事務室の鍵のかかる棚に保管されていて、職員は必要な時に見ることができます。また、クラス会議や職員会議、パート会議で子どもの状況について話し合い共有しています。年度末には、記録だけでなく新旧のクラス担任間で引き継ぎの時間を作り申し送りをしています。職員会議でも情報共有しています。

## I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1) 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2) 障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3) 虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4) アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5) 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・特に配慮を要する子どもを受け入れています。個別のケースについて職員会議やクラス会議で話し合っていて、記録もあります。
- ・保護者の同意を得て、戸塚区こども家庭支援課や戸塚地域療育センター、横浜医療センターから情報やアドバイスを受けています。また、運営法人が契約する臨床心理士が月に一度子どもの様子を見て回り、アドバイスしています。臨床心理士は保護者の相談にもなっています。職員は横浜市や戸塚区、戸塚地域療育センターなどが主催する障がいに関する研修に積極的に参加し、職員会議などで報告しています。研修の成果は、保育室の環境設定などに活かしています。
- ・虐待についてのマニュアルを整備するとともに、入職時の研修で周知しています。また、職員会議やパート会議でも確認しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、戸塚区こども家庭支援課や横浜市南部児童相談所と報告、連携する体制ができています。
- ・食物アレルギー疾患がある子どもに対しては、主治医の記入した「アレルギー疾患生活管理指導表」を保護者に提出してもらい、保護者と連携して除去食を提供しています。除去食を提供する場合にはチェックリストを用いて、給食、受取、配膳、食後でチェックしています。提供時には、専用トレー、食器、名札を使用し、席も別にして保育士がつき、誤食を防いでいます。
- ・保育室に「アレルギー食提供における一日のフロー」「食物アレルギーによる症状への対応」「アナフィラキシー対応マニュアル」を掲示し、常に確認できるようにしています。また、年2回誤食によるアナフィラキシー症状が起きた場合の対応訓練を実施しています。栄養士は、朝のミーティングに参加し、その日の除去食について周知しています。
- ・外国籍など文化が異なる子どもに対しては、トイレトレーニングなど文化や生活習慣の違いを尊重しています。保護者に対しては、連絡帳にひらがなやかたかなで記載したり、ゆっくり説明したり、お便りを代読したりしています。

## I-6 苦情解決体制




- (1) 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みに

- ・苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長で、玄関に掲示するとともに、重要事項説明書や入園のしおりに記載し、保護者に周知していま



<p>なっているか。</p> <p>(2) 要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。</p>	<p>す。また、玄関に「にじいろ保育園苦情解決システム」を掲示し、周知しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 第三者委員 3 名を定め、氏名、連絡先を重要事項説明書に記載するとともに、玄関に掲示しています。第三者委員は、運営委員会に出席し保護者の意見を聞いています。</li> <li>• 毎日の送り迎え、連絡帳、意見箱（スマイル BOX）、個人面談や懇談会、運営委員会などで保護者の意見を聞いています。行事後にはアンケートを実施し、保護者の意見を把握しています。担任と話す機会の少ない保護者とは連絡帳を活用しコミュニケーションを取るよう努めています。</li> <li>• 寄せられた要望や苦情は、職員会議等で職員に周知し、改善策について話し合っています。要望や苦情は記録し、データとして活用されています。保護者からの声を受けて自由遊びの時間用にたくさんお絵かき用の紙を用意した、左手用のはさみを備えたなどの事例があります。</li> </ul>
--	--

## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p> <p>(1) 子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p>(2) 遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p>(3) 動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p>(4) 子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p>(5) 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p>(6) 積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保育室内にある絵本やおもちゃは、各クラスの子どもの身長に合ったおもちゃ棚に整理されています。子どもが自由に好きなおもちゃの出し入れができるように箱には写真も貼ってあります。おもちゃや絵本は、保育士の手作りも多く、発達年齢に合わせた興味・関心のあるもの、安全性の高いものなど取り揃えています。また、季節ごと（豆まき、ハロウィン、クリスマスなど）に子どもが興味を示す教材などを入れ替えています。</li> <li>• 自由時間の遊びは、保育士が決めるのではなく、子どもの発達年齢により自由に好きなコーナーで遊べるよう工夫をしています。</li> <li>• 幼児は、園庭のプランターに花や野菜を育てています。何を育てるか決めるのも子どもたちで決め、花店に買い物に出かけます。種や苗を植え、苗の芽生えの観察や水やりの当番をきめて皆で生長を楽しみ、収穫もしています。収穫した野菜は、全園児の保育活動に使用しています。乳児には野菜を見せ、幼児は自分たちで育てた野菜をクッキングに使います。また、園庭や園外で見つけた昆虫の飼育を行い、生あるものを育てることの責任や命の大切さも伝えています。</li> <li>• 表現力を養うために乳児から幼児まで発達年齢に合わせ、自由に作品作りができるように教材を豊富に取り揃えています。また、幼児クラスでは、月に 2 回外部講師による「造形教室」も行っています。廃材、テープ類、クレヨン、カラーペンなどの工作道具類や自由画帳などは、いつ</li> </ul>

でも自由に使い、子どもたちの発想・展開・創作に繋がる環境を工夫しています。子どもたちの作品は保育室や廊下に展示され、次の意欲につながっています。学年末には、「思い出つづり」として保護者に子どもたちの作品集を手渡しています。また、園では身体的表現としてリズム運動や体力作りに力を入れ、月に2回外部講師によるマット、跳び箱、縄跳びなどを使った「体操教室」を催しています。

- ・子どもへの接し方のマニュアルを作成し、研修で、叱り方や言葉遣い、態度の不適切な事例を挙げ学習しています。ただし、子どもが理解できないような叱り方や声掛けが見受けられました。子どもと保育士との関係性を深めるためのさらなる取り組みを期待します。
- ・個々の自由遊びから集団で遊ぶ楽しさを味わうためのルールや社会性が身につくようにドッチボールなどルール性のある年齢にあわせた遊びを保育活動の中に取りいれています。
- ・天気の良い日は殆ど散歩や戸外遊びをしています。園内では、年間を通して裸足保育を取り入れ、0歳児から幼児までしっかり足の指や足裏を刺激し、体幹を鍛える工夫をしています。

## Ⅱ－1 保育内容[生活]



- (7) 食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8) 食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9) 子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10) 子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11) 午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12) 排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・園では「食育」に力を入れています。乳児から幼児まで発達年齢に合った食への興味を養う工夫をしています。乳児には野菜を見せることから始まり、幼児では食材や包丁も使ったクッキングに挑戦します。年に一度は「世界の料理を食べてみよう」や保護者同伴で本節を削って本格的なうまみを出すかつおぶし教室なども行っています。クッキングを通して食べることの大切さや作ることの楽しさを知り、食への興味が持てるような工夫をしています。また、子どもの食事の量や好みなどを把握し、個々の子どもにあった食事対応をしています。決して無理強いせず、完食した喜びを得られる支援をしています。
- ・食事をする椅子・テーブルは身長にあわせた高さに調節し、しっかり座って食べられる環境にしています。乳児クラスでは、床に足が届かない子ども用に牛乳パックを利用した台に足を乗せています。箸、スプーン、フォーク、茶碗の重さ、大きさなども子どもの成長に合わせています。食材は、国産の物を使用し、産地を確認した上で発注しています。
- ・栄養士と調理師が毎回給食とおやつ時に子どもたちの喫食状況を見て回ります。毎月1回給食会議を開催し、栄養士、調理士、園長、保育主任、クラスリーダーが出席して、クラスからの意見・要望・残食記録などを基に献立や調理に反映しています。
- ・園の玄関には、その日の子どもたちの給食やおやつのサンプルが展示されています。子どもたちに人気のレシピもおいてあります。
- ・乳児の午睡や休息は時間を決めるのではなく、子どもの生活のリズムを大切にし、いつでも入眠出来るようにしています。乳幼児突然死症候群の予防に0歳児は5分毎に、1歳児は10分毎に体に触れて、呼吸、顔

色、体の向きなどチェックし、うつぶせ状態は、体位変換を行い記録しています。年長児クラスは、就学期にむけて1月ごろから午睡を減らしていきませんが、子どもの様子を見ながら午睡を取り込むなど状況に合わせています。幼児クラスで眠れない子どもには、布団の上で静かにしているのも休息の時間だと伝えています。

- トイレトレーニングには個人差があることを尊重し、無理のないよう保護者と連携を密にしながら行っています。幼児クラスでは、活動の区切りにトイレ誘導をしますが、無理強いせず、自由意志にまかせています。
- お漏らしをしてしまった子どもには、他の子どもに気づかれないようすばやく対処することとしています。ただし、一部には、子どもの羞恥心への配慮を欠く場面も見受けられましたので、さらなる認識を期待します。

## Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- (1) 子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2) 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3) 感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- 健康マニュアルがあり、家庭での子どもの健康状態を連絡帳（乳児）や口頭（乳児・幼児）で説明を受けます。特に注意する子どもには、看護師を中心に全職員が周知し、状況に応じた保育をしています。また、降園時には日中の様子を保護者に説明し、場合によっては受診を勧めます。受診後の報告を受け、記録しています。入園時に既往歴や予防接種などを記入した「児童健康調査票」の提出をしてもらい、変更や更新の際には追加記入をし、個々の子どもの健康状態を常に把握しています。
- 春と秋の2回の健康診断と年に1回の歯科健診があり、一人一人の子どもの「健康カード」に記録しています。
- 乳児は食後にお茶を飲み口腔内を清浄します。2歳児から一人磨きを開始しますが、個人差があるので保育士が援助していきます。3歳児は自分で歯磨きした後、保育士が仕上げ磨きをします。年に一回の歯科健診で赤染めのブラッシング指導を受け、正しい歯磨きの仕方や歯の役割、歯の大切さを学びます。
- 健診時に相談のある保護者には園医や歯科医師からのアドバイスを得ることが出来ます。診断結果は、全保護者に書面で知らせ、受診の必要がある場合は、個別に説明し、受診後の結果を確認して健康カードに記録しています。
- 感染症のマニュアルがあり、園内で発生した時の対応も詳しく示されています。一般的な感染症の症状や登園の目安などは、入園の際に配布される「入園のしおり」に明記しています。
- 園児・職員に感染症が発生した場合は、感染症についての症状、潜伏期間、感染期間など直ちに掲示板で知らせ、保護者向け注意喚起をしています。また、毎月の「ほげんだより」には感染症の情報を発信し、感染症の早期発見、園内での流行を最小限に抑えることなど十分に注意することを伝えています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



(4) 衛生管理が適切に行われているか。

- 衛生管理のマニュアルがあり、本部の看護師会を中心にした基本的なマニュアルが作成されていますが、園に必要な項目などを加えた園独自のマニュアルが作成されています。看護師、栄養士を中心に定期的に見直しをしています
- 各保育室、トイレ、調乳室には掃除チェックリストがあり、掃除以外にも午前と降園時など清掃状態を確認しています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- (5) 安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。
- (6) 事故や怪我の発生時および事後の対応体制が確立しているか。
- (7) 外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- 安全管理マニュアル、危機管理マニュアルがあります。事故災害対応マニュアル、ヒヤリハットマニュアルなど細かく分類したマニュアルも作成され、全職員が周知しています。各保育室には、室内におけるヒヤリハットが発生しやすい箇所として提示され、保育士に注意を促しています。
- 避難訓練年間計画を作成し、地震・火災・洪水を想定した避難訓練を月一回行い、緊急連絡先の消防署などに要領よく伝える通報の仕方も各クラスに掲示しています。また、緊急連絡体制も整っており、保護者向けの引渡訓練・安心伝言版の利用訓練・避難場所の戸塚小学校への避難訓練なども実施しています。
- 事故予防マニュアル、事故対応マニュアルがあります。職員、保護者の連携体制は整っています。看護師は保育中に子どもの怪我・事故が起きた時は、軽症であっても保健日誌に発生時間・場所・状態などを記録し、降園時には、必ず園児の怪我などを確認してもらい、対応などの状況も細かに説明をしています。
- 玄関の鍵は、オートロック式で来園者を確認してからロック解錠しています。また、より安全のために警備保障会社と契約し、3ヶ月に一度は、園児と一緒に不審者対策訓練を警備保障会社主導で行っています。散歩にも必ず警備保障会社に直接繋がる通報ボタンを持参していきます。

## Ⅱ－３ 人権の尊重



- (1) 保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。
- (2) 必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。
- (3) 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。
- (4) 性差への先入観による役割分業

- 保育中の子どもの叱り方など子どもの人格尊重は常に意識していますが、まだ徹底されていない場面も見受けられました。全職員がその子ども一人一人のペースや思いを大切にしたい保育に心がけ子どもと良い関係作りができるよう、今後はさらなる取り組みが期待されます。
- 保育室の片隅にパーテーションで区切り、誰からも見られずゆっくり出来るコーナーやウッドデッキに出て一人で過ごせる空間を作っています。
- 守秘義務のマニュアルがあります。職員は、入社時に守秘義務の研修を受け機密保持誓約書を提出しています。また、ボランティアや実習生受入れ時にも機密保持誓約書を取り交わしています。子どもの名前が記入



意識を植え付けないよう配慮しているか。

された不要な書類は、シュレッダー処分とし、また、個人情報掲載の書類は、園外持ち出し禁止としており全職員厳守しています。ブログや園のたよりに掲載の子どもの写真は、保護者から「画像承諾書」で確認し、掲載許可を得ています。日誌、健康診断表、出席簿、児童票、住所録、ケース会議など個人情報に関わるファイルは、職員室の施錠できるケースに保管し、遅番は必ず施錠確認をしています。

- 遊びの役割や順番、整列、持ち物、グループ分けなど性別による区別はしていません。一人親の配慮として「母の日」「父の日」も設定せず、呼び方は「保護者」で統一しています。運動会、お楽しみ会やクラスだよりの個人名には「・・・さん」としています。



## Ⅱ-4 保護者との交流・連携




- (1) 保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。
- (2) 個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。
- (3) 保護者の相談に応じているか。
- (4) 保育内容（行事を含む）など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。
- (5) 保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。
- (6) 保護者の自主的な活動の援助や意見交換を行っているか。

- 年度初めの懇談会で園長から園の理念・園の基本方針を説明しています。また、クラス懇談会、個人面談、園のたより、クラスたよりなど機会あるごとに日常の保育を伝え、理解を得るよう努めています。また、各行事の後や年度末には、必ず保護者へアンケートを行い、園の理解度や要望・意見などの把握をしています。
- 乳児クラスは、毎日連絡帳に記入し、降園時にはその日の様子を口頭でも伝えていきます。幼児クラスでは、連絡帳のやり取りはありませんが、必要に応じて記入し、降園時には、必ず口頭で様子を伝えていきます。
- 個人面談は、年に2回、保護者の都合に出来るだけ沿うように実施しています。場合によっては、クラス担任だけでなく、園長、主任、看護師、栄養士も同席する事があり、臨床心理士への相談や追加の個人面談も保護者の希望に沿うよう努めています。
- 園たより、クラスたより、ほげんだよりなど毎月発信し、子どもの様子や活動状況など積極的に提供しています。玄関には「今日の〇〇」として子どもたちのエピソードなどを記入した様子なども掲示しています。クラス懇談会は、年に2度実施しています。クラス全体の様子や子どもの成長振り、避難訓練の様子などを伝え、日常の保育の情報や理解を得ています。送迎時に保護者と会えない時は、登降園表に保護者宛連絡事項や延長保育連絡ノートに連絡内容を記入し、保護者との連携が途切れないように努めています。クラス懇談会の実施日は、保護者の参加しやすい土曜日を開催しています。
- 園児と一緒に保育活動に参加できる懇談会を開催し、子どもとの体験を通してより分かりやすく園を理解してもらえよう努めています。
- 保護者からピアノや施設の設備用具など貸し出しの要望がある時は、活動の援助をしています。主だった園の行事には、保護者からの申し出があり、大きな協力を得ていますが、園には保護者組織として独立した「保護者会」はありません。

## 評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類		評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）	
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供		
<p>(1) 地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園の行事、保育参加、育児相談など園で行う子育て情報を園の掲示板、園のホームページ・ブログ、運営法人のホームページなどで知らせ、参加者からの相談やアンケートにより地域のニーズを把握しています。</li> <li>「親子ひろば」では、ベビーマッサージや絵本の読み聞かせを開催したり、臨床心理士への相談、栄養士による離乳食や乳児の好きな献立レシピ情報、看護師による身体的な相談など園の専門性を活かした子育ての悩み相談口として地域に広く提供しています。</li> </ul>	
Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能		
<p>(1) 地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。</p> <p>(2) 相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民への情報提供は、園の掲示板、園のブログ、運営法人のホームページ、戸塚区の子育てマップや子育て情報誌などに園の行事参加の募集をしています。臨床心理士、看護師、栄養士から専門的な育児相談も随時対応しています。また、読書週間に「保育士が薦める絵本」を園の掲示板に掲示しています。</li> <li>園医、地域の医療機関のリストやその他の関係機関（児童相談所、戸塚区こども家庭支援課、戸塚地域療育センターなど）のリストがあり、関連機関との連携は、園長が担当をしています。また地域との連携として、民生委員・児童委員、近隣の消防署、巡回警察官との情報交換や幼保小の交流会議、園長・校長会議にも積極的に参加し、連携を密に図り、相談内容に応じた的確な対応に努めています。</li> </ul>	

## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類		評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）	
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ		
<p>(1) 保育園に対する理解促進のための取り組みを行っているか。</p> <p>(2) 子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>にじいろ祭り、誕生会、敬老の日交流会、運動会、クリスマス会など園の行事に地域住民を招待し、園の理解を図る機会としています。事前に掲示板や他の媒体などで参加呼びかけを広く行っています。</li> <li>地域の商店会に加盟し商店会総会に出席しています。夏祭りには子どもたちや保護者も参加しています。就学先の小学校の運動会や卒業式交流会に出席しています。また、地域住民から保育で使用するダンボール箱</li> </ul>	

の収集の協力を得るなど、地域との交流を図っています。

- 地域から要請があれば園の施設や備品などをいつでも貸し出せる体制を整えていますが、現在まで要請がなく実績はありません。

#### IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- (1) 将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。
- (2) 利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。

- 園のパンフレットや行事の案内は、横浜市のホームページ（ヨコハマはびねすぽっと）、戸塚区の子育てまっぴ、子育て応援ガイド誌、運営法人のホームページ、園のブログ、園外の掲示板などに園の情報を分かりやすく提供しています。
- 利用希望者の問い合わせには、園長、主任が対応しています。また、見学は予約なしでも極力対応するように努めています。見学者には、園のしおりを手渡し、運営法人の情報なども詳しく説明しています。また、希望であれば園児と一緒に保育体験のすることも伝えていきます。


#### IV-3 ボランティア・実習の受け入れ




- (1) ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。
- (2) 実習生の受け入れを適切に行っているか。


- ボランティアや実習生の受け入れのマニュアルが作成されています。受け入れには主任が担当し、受け入れ時のオリエンテーションでは、園での配慮事項（守秘義務の遵守や注意事項など）、書式記載の指導や心得なども詳しく説明しています。中学生の体験学習や読み聞かせのボランティアなど積極的に受け入れています。
- ボランティア、実習生の受け入れには、事前に職員、保護者、子どもたちに園の方針を説明しています。
- 実習生の受け入れには、養成校の担当職員と綿密な打ち合わせを行い、実習の狙いや本人の要望なども考慮した効果的なプログラムを作成しています。実習日誌や指導計画には園長、主任、配属クラス担任がチェックし都度指導をしています。実習終了後は実習内容の振り返りや実習生の意見・要望などを聞き、園の保育活動に反映させています。終了後は実習生受け入れファイルとして記録しています。

### 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類		評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）	
V-1 職員の人材育成		
(1) 保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。	• 保育所の理念・方針を踏まえた人材育成計画として、「職員育成年間研修計画」と「チャレンジ共有シート」を用いています。非常勤職員を含む全職員が「チャレンジ共有シート」を用いて年度初めに目標を記入し、半期と年度末に自己評価しています。年2回の園長面談では、「チャレンジ共有シート」の共有目標の設定と達成度の評価をしています。	
(2) 職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。		

<p>(3) 非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修担当は主任で、職員の希望や受講歴、「職員育成年間研修計画」に記載した身につけてほしい資質と、受けて欲しい研修などを考慮し、個別の研修計画を作成しています。</li> <li>• 園内研修は、2名の研修係が資質向上に向けた年間テーマを設定し実施しています。取り上げられたテーマとしては、不審者対策、叱り方について、幼児期の運動に関する指導についてなどがあります。</li> <li>• 運営法人の研修には、該当する職員が参加しています。職員は、横浜市や戸塚区、白峰学園保育センター、戸塚地域療育センターなどが主催する研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は、研修報告書を作成するとともに、職員会議などで報告しています。</li> <li>• 正規職員と非常勤職員が組み合わせられるように人員配置しています。園内研修や運営法人の研修には非常勤職員も参加しています。非常勤職員の指導担当は主任で、パート会議を主宰し、職員会議の報告などの情報共有を図るとともに、非常勤職員の意見や要望を聞いています。</li> </ul>
----------------------------------	---



<h2>V-2 職員の技術の向上</h2> 	
<p>(1) 職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。</p> <p>(2) 保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。</p> <p>(3) 保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修や園長会、主任会などで得た良い事例は職員会議で報告し、活かしています。また、戸塚地域療育センター、横浜医療センターなどの外部の関係機関や専門家から保育についての助言や指導を受けています。</li> <li>• 年間指導計画や月案、週案、日誌などには、自己評価の欄があり、定形化されています。また、3ヶ月に一度園独自の自己評価シートを用いて振り返っています。自己評価シートには保育理念、子どもとの関わりや心がけ、環境整備・環境構成、保護者との関わり、職員同士の関わり、保育者の資質向上などの項目が設定されていて、定形化されています。自己評価は計画で意図したねらいと関連付けて行われていて、結果はその後の計画作成や自己研鑽に活かされています。</li> <li>• 保育士個々の自己評価結果を基に職員会議で話し合い、園の自己評価「にじいろの保育」を実施しています。「にじいろの保育」は、保育理念や方針、保育課程に沿って行われています。自己評価の結果は事業報告書に掲載するとともに、事業報告書と事業計画書、自己評価「にじいろの保育」をファイルして玄関に置き、保護者が閲覧できるようにしています。</li> </ul>

<h2>V-3 職員のモチベーション維持</h2> 	
<p>(1) 本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全職員に配布されている「保育ナビ」に経験や能力、習熟度に応じた役割が期待水準として明文化されています。</li> <li>• 業務分担表で職員の権限や責任を明確にしています。行事担当以外にも、園内研修・第三者評価・図書・教材・倉庫・ブログなどの係を設け、職員に権限委譲しています。</li> <li>• 年1回の意向調査の際にアンケートを配布し職員の意見や要望を聞いて</li> </ul>



います。また、年2回の園長面談で職員の満足度や要望を把握しています。職員からの発案でプールの監視役のシミュレーションを行い、全ての子どもが見渡せるよう脚立を用いて高い位置から監視することにした等の事例があります。

## 評価領域Ⅵ 経営管理

評価分類	評価結果
評価分類に含まれる評価項目	評価の根拠（具体的な取り組み・工夫事例）
<p>Ⅵ-1 経営における社会的責任</p> <p>(1) 事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2) サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保育ガイド」に組織及び職員が守るべき法、規範、倫理が明文化され、非常勤職員を含む全職員に配布されています。運営法人の入職時研修で周知するとともに、折にふれて職員会議で確認しています。</li> <li>・事業報告書、事業計画書をファイルして玄関に置き、いつでも見れるようにしています。</li> <li>・ゴミの分別を実施しています。廃材を用いて手作りおもちゃを作ったり、製作の素材として用いたりしています。エアコンのスイッチの傍に設定温度の基準を掲示し、省エネルギーへの意識を喚起しています。夏季には緑化の取り組みとして朝顔のグリーンカーテンを作っています。</li> <li>・環境への考え方、取り組みを「環境問題への取り組み」として明文化し、職員室に掲示しています。</li> </ul>
<p>Ⅵ-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> <p>(1) 保育園の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<div style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念、保育方針、保育目標を「保育ガイド」に掲載し、全職員に配布しています。また、玄関、保育室、職員室、トイレなどに掲示しいつでも確認できるようにしています。運営法人の入職時研修で保育の理念や方針を周知しています。また、職員会議やパート会議で折に触れて取り上げ、確認しています。園長、主任は保育の様子を見て回るとともに、指導計画や日誌、児童票、園便りなどをチェックし、職員が保育理念や方針を理解できているかを確認し、必要な場合は指導やアドバイスをしています。年2回の園長による職員面談でも確認しています。</li> <li>・平成27年度の子ども子育て支援新制度の導入など重要な意思決定にあたり、園長は職員や保護者に理由や経緯を説明し同意を得ています。毎年課題となっている運動会の開催場所については、園長は経緯を細かく保護者に説明し、意見交換しています。</li> <li>・運営法人の主任研修があり、主任を計画的に育成しています。主任はフリーの立場でクラスに入り、個々の職員の業務状況を把握し、必要な助言や指導をしています。園長、主任は職員の様子を見守り、必要に応じて声をかけて職員の悩みを聞いたり、相談にのったりしています。</li> </ul>

### VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育園運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・園長は、戸塚区合同園長会、私立園長会、保小の園長・校長会、地域商店会の会議などの各種会議に積極的に出席し、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。また、戸塚区こども家庭支援課、南部児童相談所、戸塚地域療育センターなどと連携し必要な情報を収集しています。把握した情報は、職員会議で報告し、重点課題として園全体で取り組んでいます。
- ・運営法人の中長期計画に基づき、園としての中長期計画を策定しています。運営法人は、待機児童解消や潜在保育士の活用などの課題について、常に新たな仕組みを検討しています。また、運営法人は、外部の保育の専門家などから運営についてのアドバイスを積極的に取り入れています。

## 利用者（園児）家族アンケートの結果概要

●実施期間

2016年6月8日～6月22日

●実施方法

- ① 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
- ② 各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。

●回収率

回収率：65.8%（73枚配布、48枚回収）

### 【結果の特徴】

※以下で「満足度」とは、「その他」「無回答」を除く回答総数における、「満足」と「どちらかといえば満足」の合計の割合です。

(1) 満足度が高かった項目

問2：見学の受け入れについて	100.0%
問2：園の目標や方針についての説明には	100.0%
問7：あなたのお子さんが大切にされているかについては	100.0%
問4：園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	97.9%
問4：お子さんが給食を楽しんでいるかについては	97.9%
問6：園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	97.9%

(2) 満足度が低かった項目

問5：施設設備については	79.2%
問5：感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	83.3%
問4：保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	84.8%

(3) 総合満足度

問8：総合満足度は	98.0%
-----------	-------

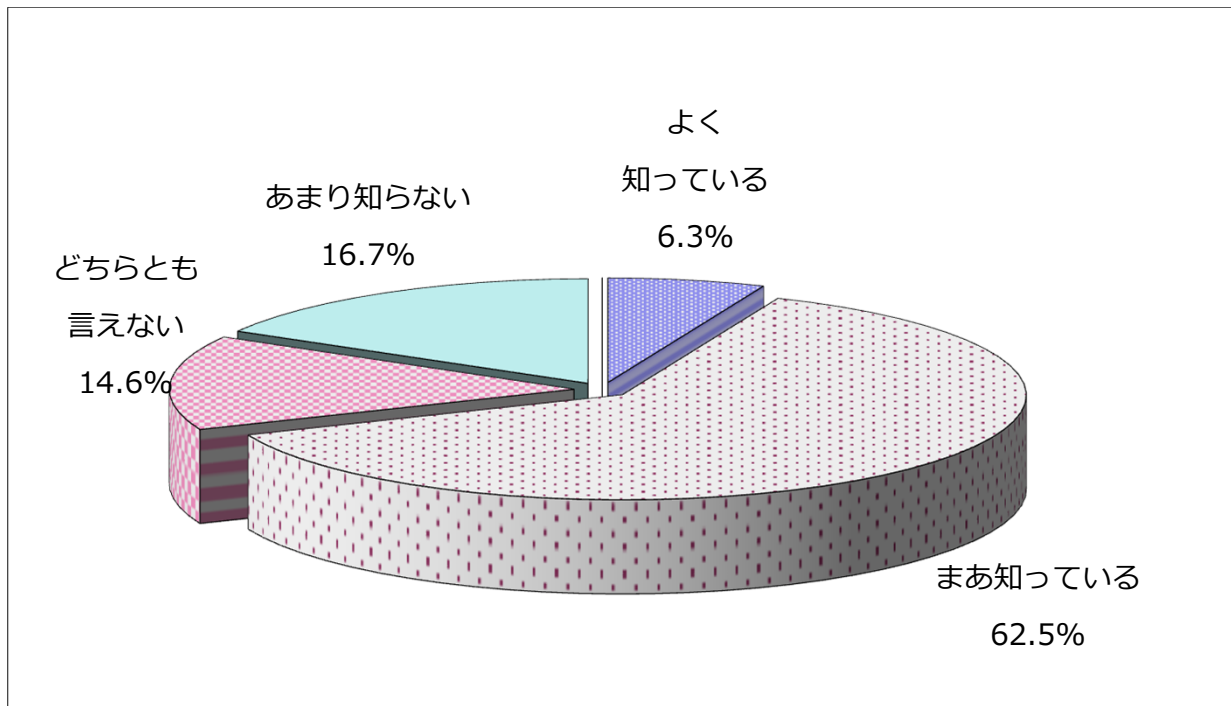
(4) 中項目ごとの平均満足度

問2：入園時の状況について	97.5%
問3：年間の計画について	94.7%
問4：日常の保育内容「遊び」について	95.0%
問4：日常の保育内容「生活」について	93.0%
問5：快適さや安全対策などについて	85.4%
問6：園と保護者との連携・交流について	95.1%
問7：職員の対応について	96.2%

# 利用者（園児）家族アンケート 集計結果・分析

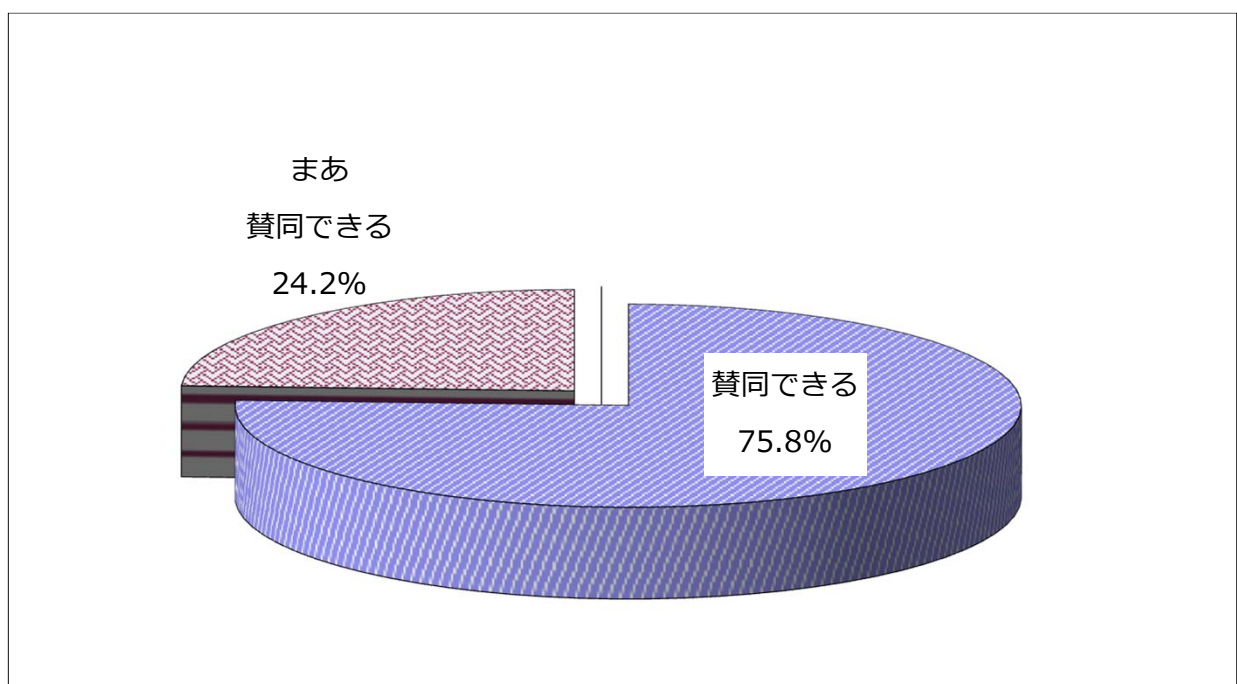
## ■ 保育園の基本理念や基本方針について

### 問1 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

### 付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

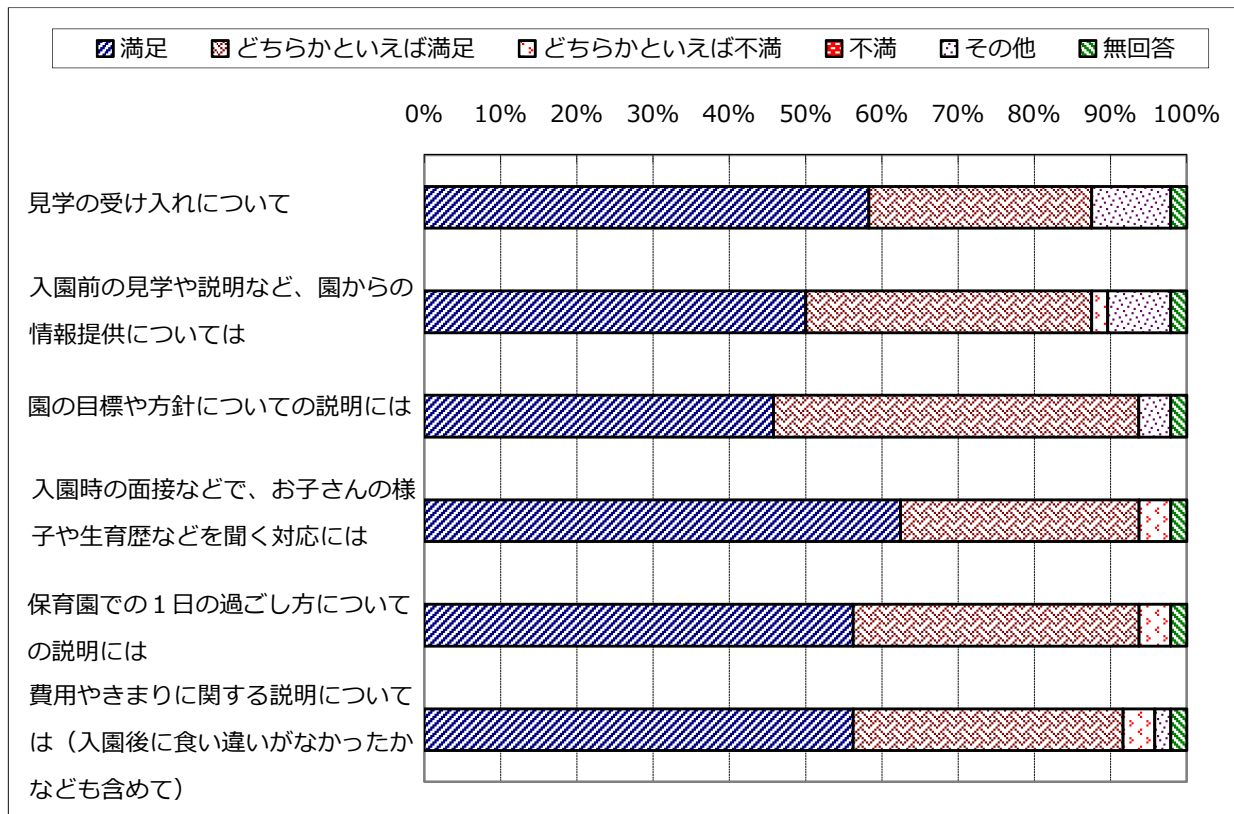


## ■ 保育園のサービス内容について

(%)

### 問2 入園時の状況について

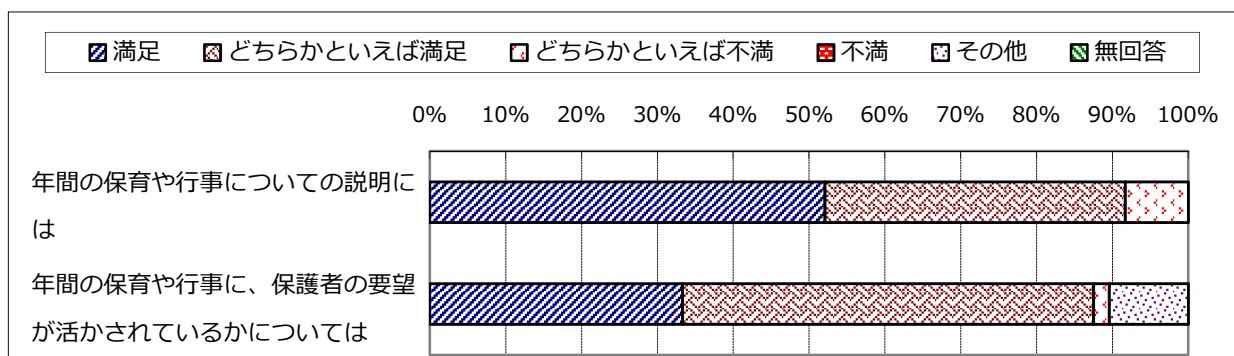
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについて	58.3	29.2	0.0	0.0	10.4	2.1
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	50.0	37.5	2.1	0.0	8.3	2.1
園の目標や方針についての説明には	45.8	47.9	0.0	0.0	4.2	2.1
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	62.5	31.3	4.2	0.0	0.0	2.1
保育園での1日の過ごし方についての説明には	56.3	37.5	4.2	0.0	0.0	2.1
費用やきまりに関する説明については (入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	56.3	35.4	4.2	0.0	2.1	2.1



(%)

### 問3 年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	52.1	39.6	8.3	0.0	0.0	0.0
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	33.3	54.2	2.1	0.0	10.4	0.0

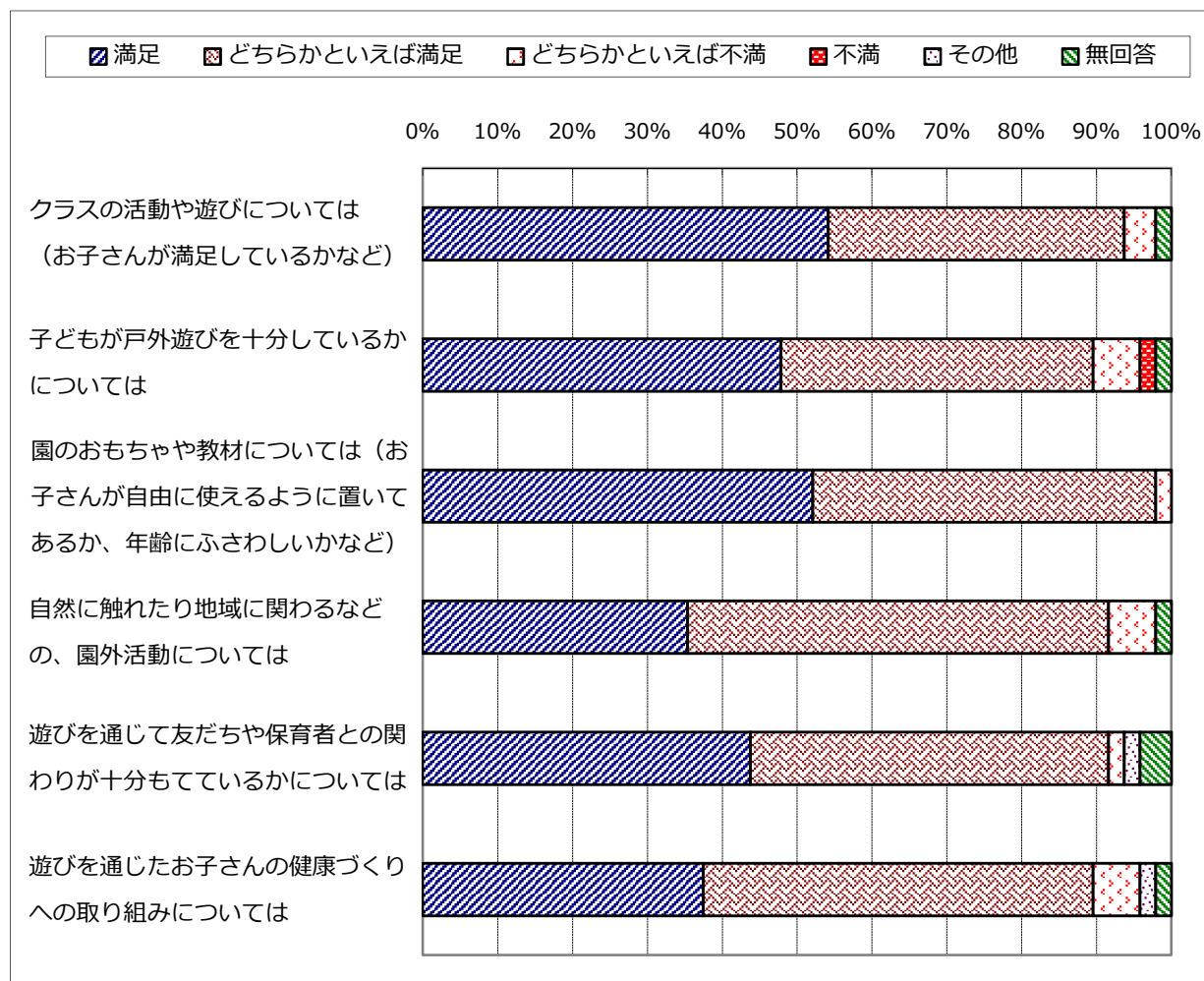


## 問4 日常の保育内容について

### ● 「遊び」について

(%)

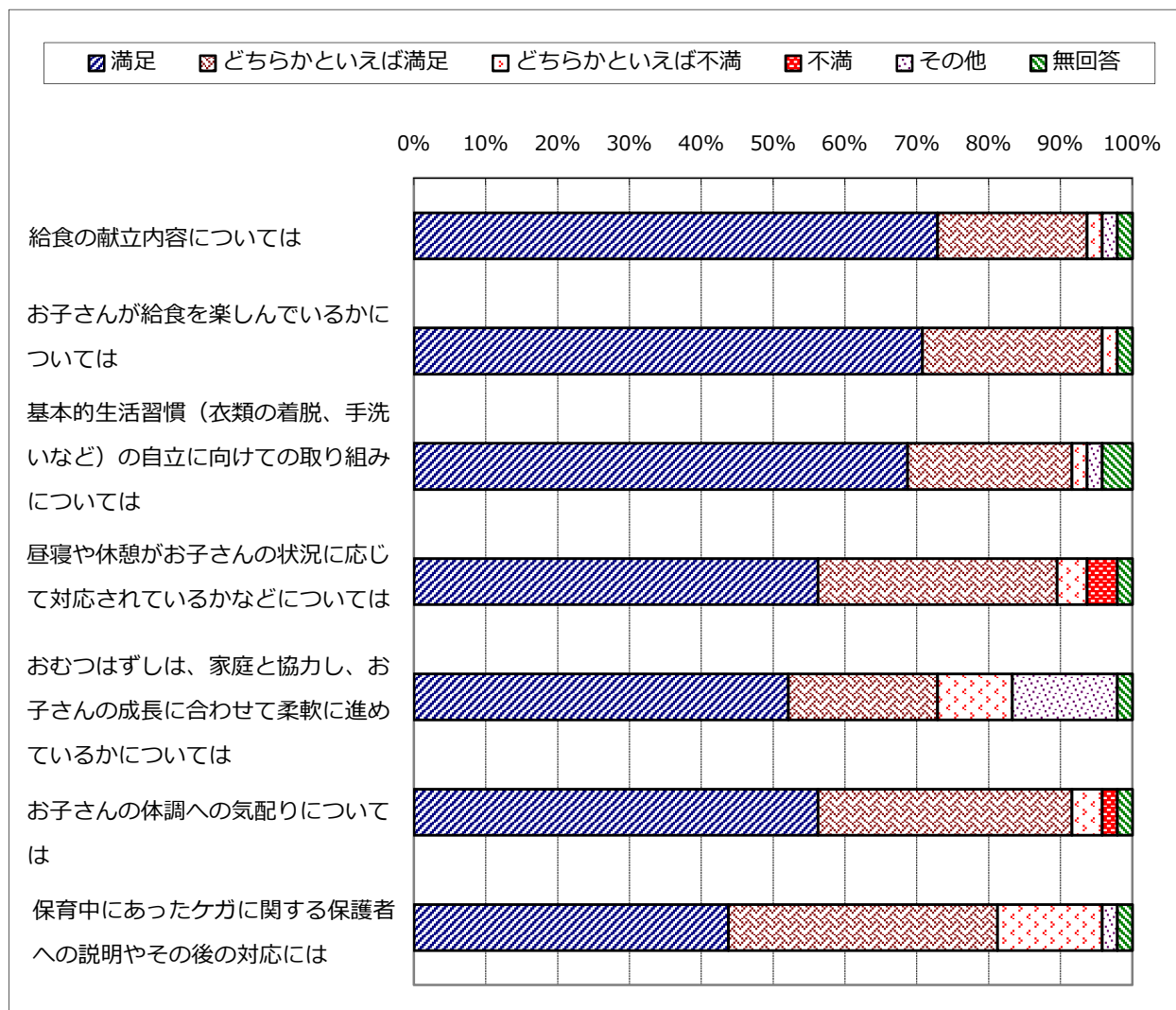
	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	54.2	39.6	4.2	0.0	0.0	2.1
子どもが戸外遊びを十分しているか については	47.9	41.7	6.3	2.1	0.0	2.1
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いて あるか、年齢にふさわしいかなど)	52.1	45.8	2.1	0.0	0.0	0.0
自然に触れたり地域に関わるなどの、 園外活動については	35.4	56.3	6.3	0.0	0.0	2.1
遊びを通じて友だちや保育者との関 わりが十分もてているかについては	43.8	47.9	2.1	0.0	2.1	4.2
遊びを通じたお子さんの健康づくり への取り組みについては	37.5	52.1	6.3	0.0	2.1	2.1



●「生活」について

(%)

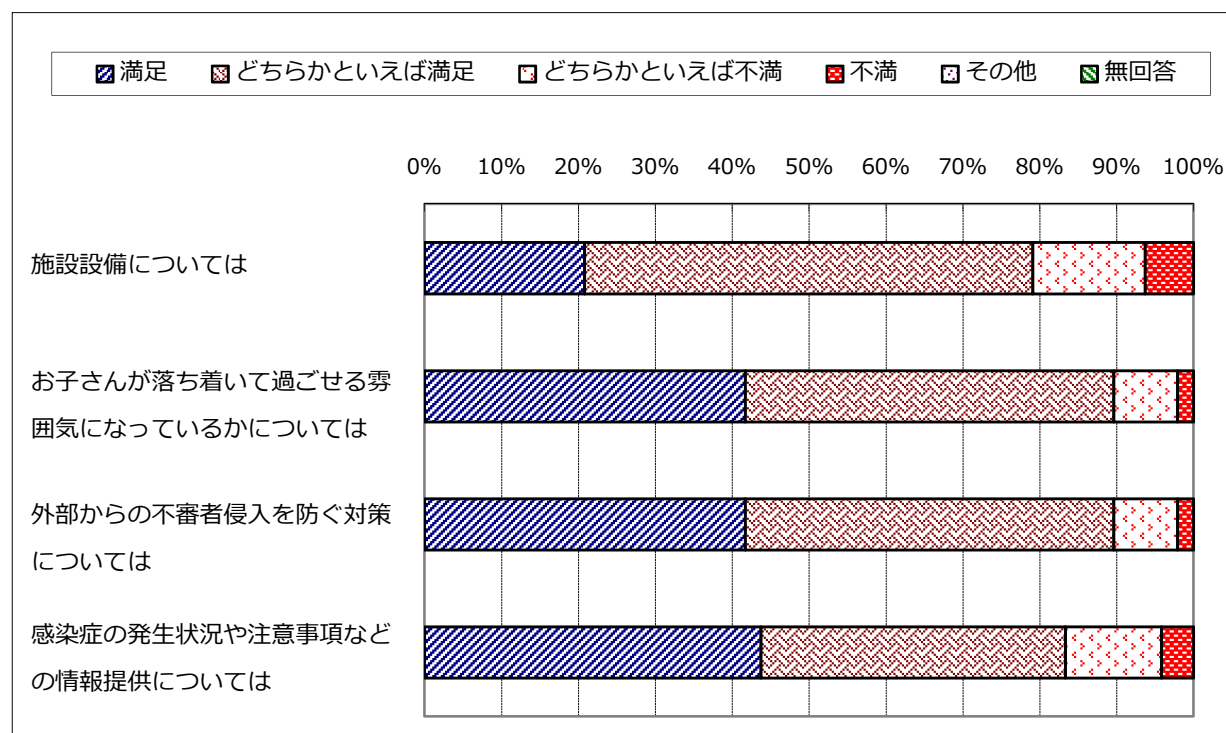
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	72.9	20.8	2.1	0.0	2.1	2.1
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.8	25.0	2.1	0.0	0.0	2.1
基本的な生活習慣（衣類の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	68.8	22.9	2.1	0.0	2.1	4.2
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	56.3	33.3	4.2	4.2	0.0	2.1
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	52.1	20.8	10.4	0.0	14.6	2.1
お子さんの体調への気配りについては	56.3	35.4	4.2	2.1	0.0	2.1
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	43.8	37.5	14.6	0.0	2.1	2.1



## 問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	20.8	58.3	14.6	6.3	0.0	0.0
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	41.7	47.9	8.3	2.1	0.0	0.0
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	41.7	47.9	8.3	2.1	0.0	0.0
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	43.8	39.6	12.5	4.2	0.0	0.0

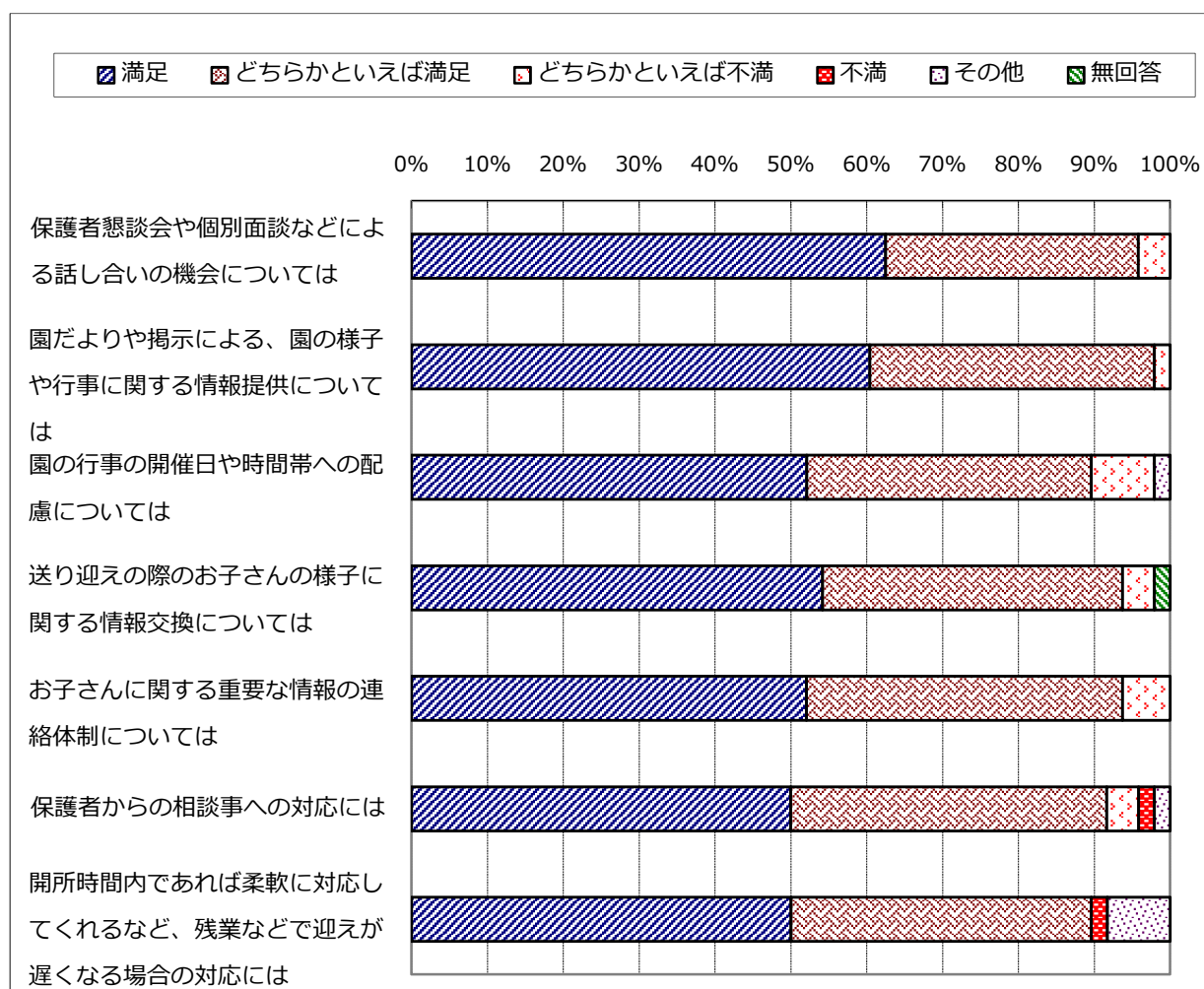




## 問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

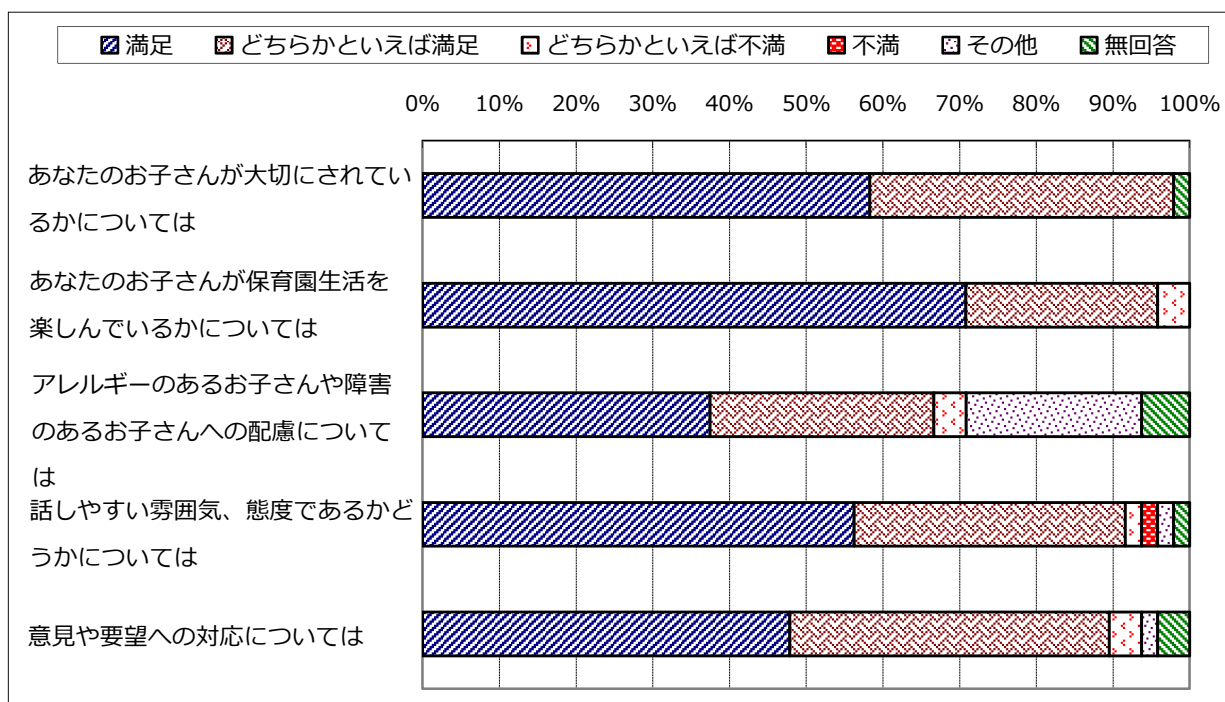
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	62.5	33.3	4.2	0.0	0.0	0.0
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	60.4	37.5	2.1	0.0	0.0	0.0
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	52.1	37.5	8.3	0.0	2.1	0.0
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	54.2	39.6	4.2	0.0	0.0	2.1
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	52.1	41.7	6.3	0.0	0.0	0.0
保護者からの相談事への対応には	50.0	41.7	4.2	2.1	2.1	0.0
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	50.0	39.6	0.0	2.1	8.3	0.0



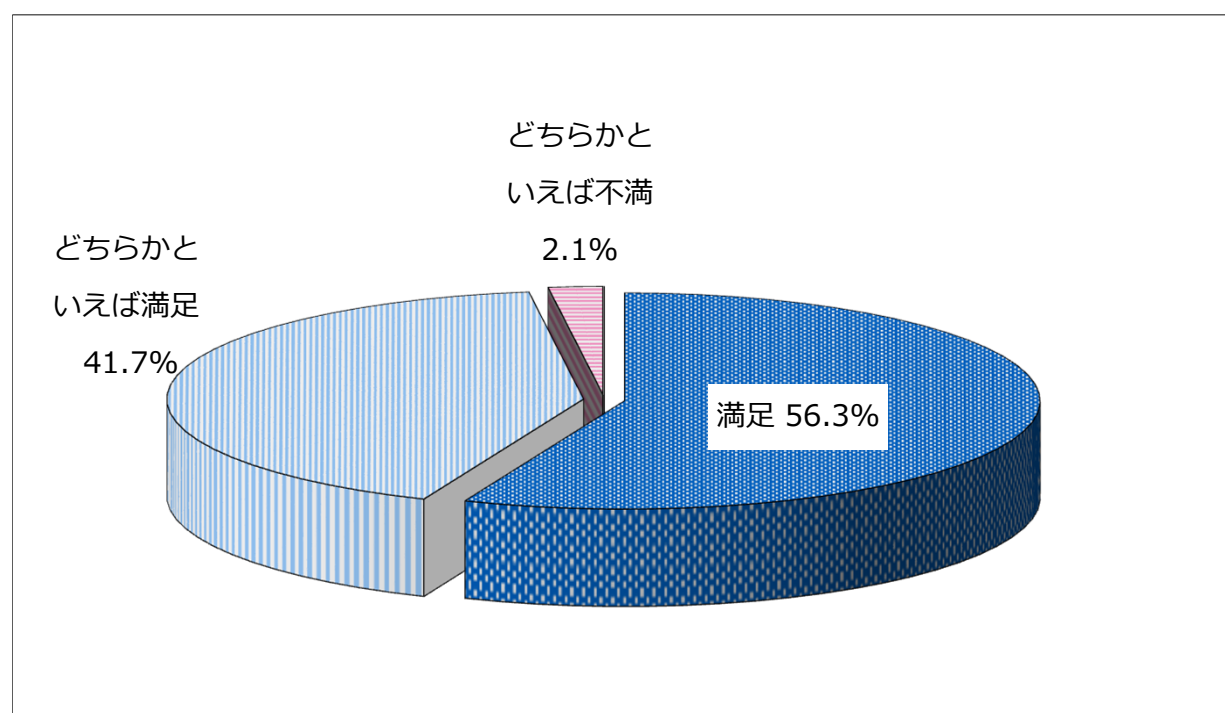
## 問7 職員の対応について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	58.3	39.6	0.0	0.0	0.0	2.1
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	70.8	25.0	4.2	0.0	0.0	0.0
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	37.5	29.2	4.2	0.0	22.9	6.3
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	56.3	35.4	2.1	2.1	2.1	2.1
意見や要望への対応については	47.9	41.7	4.2	0.0	2.1	4.2



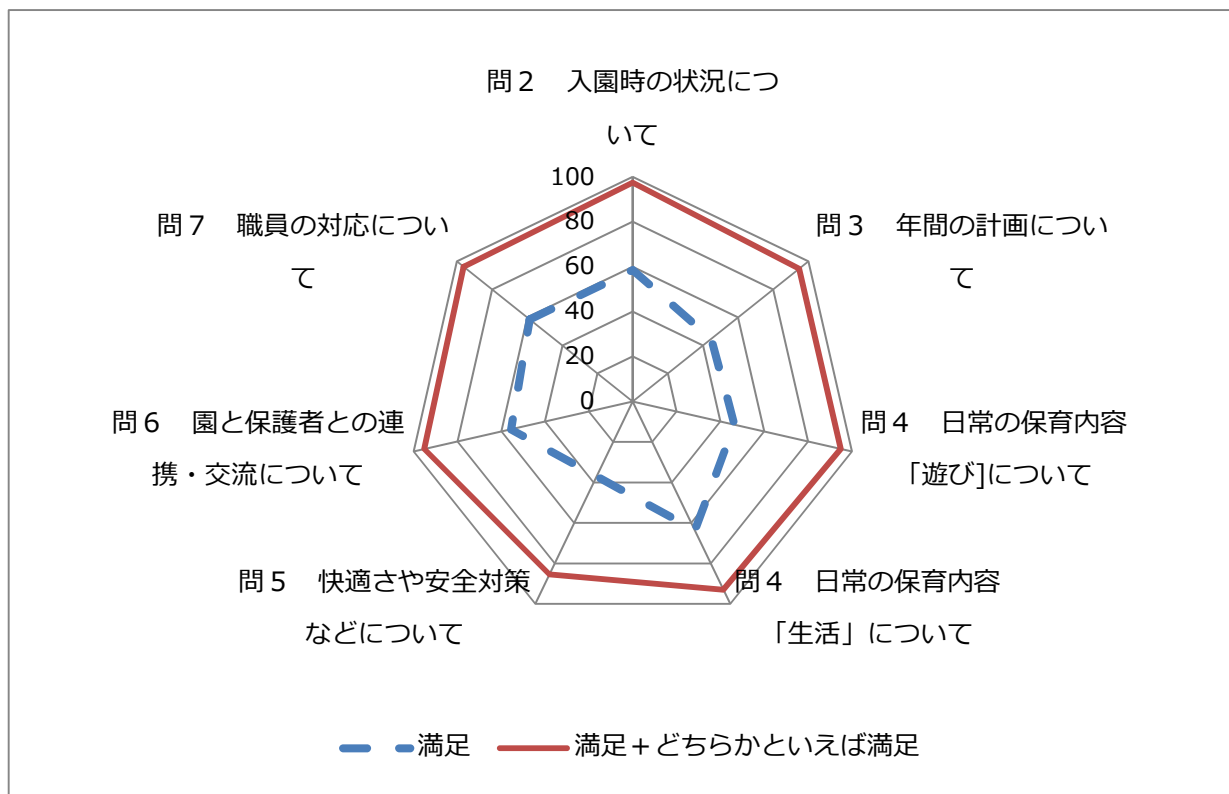
## 問8 保育園を総合的に評価すると



【参考資料：中項目別平均満足度割合】

(%)

中項目	満足	満足+どちらかといえば満足
問2 入園時の状況について	58.6	97.5
問3 年間の計画について	44.7	94.7
問4 日常の保育内容 「遊び」について	46.4	95.0
問4 日常の保育内容 「生活」について	63.5	93.0
問5 快適さや安全対策などについて	37.0	85.4
問6 園と保護者との連携・交流について	55.6	95.1
問7 職員の対応について	58.6	96.2



※各中項目は、2～7つの小項目によって構成されており、各小項目の満足度割合から平均値を算出した。

※ここでの「満足度割合」は「その他」「無回答」を除外して計算してある。

## 利用者（園児）本人調査の結果概要

実施日：8月8日（月曜日）、8月9日（火曜日）

実施方法：観察調査を調査員が各クラスで実施し、戸外・園外での活動も観察した。

幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

### ●0歳児クラス

登園後の0歳児は、保育室のマットや畳のコーナーでハイハイしている子ども、伝い歩きをしている子ども、音の出るおもちゃで遊んでいる子どもなど自由に遊んでいます。保育士は「これなんだろう」「あ、出来た、上手ね」と優しく声をかけています。朝のおやつは、ミルクの子どもがほとんどです。遊んでいた子どもがぐずり始めたので「抱っこしようね」と声を掛けながらこの子どもが一番先に授乳してもらいました。クラッカーと牛乳のおやつの子には、保育士は傍で見守り、声を掛けながらお皿をとりやすい位置に移動させます。子どものペースに合わせて口ずさみながら安全に食べられるように促しています。おやつが終わると保育士は歌いながら絵本を見せ始めました。子どもたちは皆興味津々に絵本を見ています。保育士に抱かれて見ている子どももいます。穏やかに朝の活動に入りました。

### ●1歳児クラス

朝の会の後は、片栗粉を使った感触遊びです。紙皿にのった片栗粉が配られると、恐る恐る指を突っ込む子ども、そっとつまみ揉んでみる子ども、大胆に両手を突っ込む子どもと反応はそれぞれです。見つめていて触ろうとしない子どもには保育士が声をかけて誘います。保育士は手の跡を見せたり、手を振って粉が落ちる様子を見せて遊び方を示します。子どもたちはだんだん大胆になっていき、両手で粉をまき散らしたり、テーブル中に片栗粉を広げたりします。子どもが粉を楽しんだところで色を付けた水を入れると、どろっとした塊ができます。子どもたちは全身粉だらけになって、固まったり、トロトロになったりする感触を楽しんだり、色を混ぜて変化を喜んだりしています。しばらく楽しんだ後、順番に沐浴で汗を流しすっきりします。全員がきれいになったところで給食です。十分に遊びを楽しんだ子どもたちは、スプーンや手を使って意欲的に食事を楽しんでいました。

### ●2歳児クラス

今日は、感触あそび（色水と氷あそび）をします。保育士が紙コップなどで沢山の氷を用意してきています。氷には小さなプラスチックのおもちゃなどが氷詰されていて、タライの中に氷をひろげると氷詰されたおもちゃが光ってとてもきれいです。子どもたちは、不思議そうな目をして皆で見つめています。手をのばして触ってみると、とても冷たく驚きます。少し経つとだんだん慣れてきて手に取って遊びだし楽しそうな顔になっていきます。氷が解けてくるとおもちゃが手に取れるようになり、そのおもちゃでまた遊びだします。次に、ペットボトルに絵具を薄めた水が用意され、紙コップ入れてジュースづくりを始めました。いろいろな色を混ぜながら作っている子もいます。となりの子どものジュースを気にしながら皆自由に楽しんでいます。たくさん用意したペットボトルもすぐに足りなくなり色水のペットボトルを作るようになりました。保育室での自由遊びは、3～4人のグループでブロック遊びをしたり、自動車のおもちゃで遊んだり、皆仲良く遊んでいました。

### ●3 歳児クラス

プール遊びに向けて子どもたちは準備が大変です。戻ってきた時の着替えの用意・水着・バスタオル・プールバッグなど全部を自分で用意します。それまで静かに準備していた子どもたちは、準備体操の音楽が掛かると急に元気に大きな声で歌いながら体操をはじめます。2つのプールに分かれ、保育士がそれぞれに付きます。最初は座って脚でバタバタ、次はプールにつかまって後ろ向きのバタバタと続き、次は、ワニさんのように四つんばいで水の中を歩きます。水に慣れてくるとジョウロや水鉄砲で友達に掛けあったり笑い声が絶えません。保育士に水を掛ける元気な子もいます。プール遊びの子どもたちは表情豊かで充分楽しんでいきます。

3歳児から箸使いの練習が始まっています。食事が配膳され、当番の子どもが「お手てをパッチン、いただきます」と言って皆で食べ始めますが、最初は箸を使います。上手に使える子ども、折角掴めたのにおかずを落としてしまった子ども個々に頑張っています。箸が苦手な子どもには、スプーンを勧めます。給食は、皆完食でした。

### ●4 歳児クラス

観察日は暑かったのでプール遊びをしました。準備体操をした後、2グループに分かれてプールに入ります。水を肩にかけ、すくった水に顔をつけ、足を伸ばしてバタ足の練習、四足で歩いてわにさんと少しずつ水に慣れていきます。わにさんの時に水が好きな子どもは自分から顔をつけて進んでいきます。水が苦手な子どもが思い切って顔をつけたり、バタ足を頑張ったりした時には、保育士がたくさん誉めて励まします。最後は自由に水遊びです。何人かで協力して水車を縦に重ねて、ジョウロを使って大胆に回してみたり、仲良しで金魚釣りを楽しんだり、子どもたちはそれぞれのペースで楽しんでいました。

### ●5 歳児クラス

4歳児も一緒に元気に朝の会で挨拶をした後は、4・5歳児が合同で魚釣りゲームをします。チームを作り、青いブルーシートの海に魚が並べられると子どもたちの気分もだんだん盛り上がってきます。「どのチームからにしようかな」の保育士の声かけに、それまで賑やかだった子どもたちは皆、おしゃべりをやめ背中をぴんと伸ばします。どうやったらたくさん魚が釣れるかを4歳児にアドバイスをしたりして、自分のチームが勝つよう皆真剣に取り組んでいます。ゲームの後はクラスでの寒天遊びです。紫、青、緑、赤、黄色の五色の寒天が並べられると子どもたちの目が輝きます。手を出してさわり、「べたべただ」「冷たい」「くさくない」などと感想を言い合います。好きな色の寒天をコップに入れたり出したり、細かくすくったり、手でグシャグシャにしてこねて色を混ぜたり、クッキー型で抜いてみたりと、それぞれのやり方で楽しみます。面白いやり方を見つけると友達と見せ合い、感想を言い合っています。感触を楽しんだ後には、コップに入れてゼリーを作ります。一色で統一してつめる子ども、小さな切れ端をきれいに詰めていく子ども、色を混ぜてレインボーを作る子どもと、それぞれのこだわりのゼリーが出来ました。

### ●まとめ

どのクラスでも発達年齢にあわせ、興味をひきだし、発想、展開、創作へと繋がる遊びの工夫が見られました。

その子どもの持つ想いや言動を十分に発揮できる環境の中で子どもたちは、それぞれ自由にのびのびと遊んでいました。また、この時期に行われるプール遊びでは、ルールを守り、皆で水遊びする楽しみ、水場の危険性の学習や身体の運動能力を高めるなど、一度に沢山体験できる夏の活動保育です。子どもたちは、元気一杯楽しんでいました。

## 事業者コメント

開園以来『みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛』の保育方針のもと、保護者の皆様やお子さま一人一人にとって陽だまりのように温かい保育園であるよう、職員一同常に向上心を持って研鑽を重ね、保育内容の充実に取り組んで参りました。

今回の第三者評価受審にあたり、全職員で自己評価に取り組み、保育を振り返ることによって自分自身の保育を見つめ直し、園全体の課題と向き合う事が出来ました。

保護者の皆様にはお忙しいところアンケートにご協力いただきまして誠にありがとうございました。園庭が狭いなど施設面での物的環境や保育園運営に対して深くご理解いただき温かい励ましのお言葉をいただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

また、受審の過程や結果をふまえて、戸塚園の現状や改善点が明らかになり、今後の方向性が見えてきたことで、第三者評価受審の意義を痛感いたしました。

保育園周辺地域の方々には日頃より子どもたちを優しく見守っていただいていることを実感していますが、近隣の保育園や小学校などの施設とより密接に関わりを持つことの必要性を感じると共に、地域に住む子育て中の皆様にも安心して子育てをしていただけるよう積極的に支援をしていく役割を保育園が担っていることを深く感じ、今まで以上に力を入れて取り組んで参りたいと思っています。

お子様の心を育むうえで最も大切な人的環境である保育士自身が、声掛けや関わりの面で時に適切ではない存在となっていることは大きな反省点であり、一番の課題であると感じています。園内研修で再度「にじいろの保育」について学び直し、子どもから学ぶ姿勢を忘れずに、職員同士で声を掛け合いながら保育を高めていきたいと思えます。

「評価市民・ネクスト」の調査員の皆様には、きめ細やかに保育を見て評価していただきましたことに感謝申し上げます。今後も保護者の皆様と手を携えながら、子どもたちが生き生きと輝けますよう、職員一同精進して参ります。





-評価で次のステージへ-  
since 2012

---

合同会社 評価市民・ネクスト

〒231-0003 横浜市中区北仲通 3-33 関内フューチャーセンター153

Tel: 050-3786-7048 Fax: 045-330-6048

URL: <http://www.hyouka-next.jp>